

読書案内 夏号



2017.7.6

図書委員会×
メディアセンター
発行



図書委員のミッション



- 一. 先生に取材を申し入れる。
- 一. 先生のおすすめの本を聞く。
- 一. その本との出会いや、おすすめの原因を探る。
- 一. おすすめの本を持った先生の写真を撮る。

今回は図書委員が直接先生にインタビューに行き、オススメの本の話を聞いてきたよ。



図書委員(紙面では私が代理をしています)の、時につたない質問にも丁寧に答えてくださった先生方に感謝…!



ここで紹介されている本はすべてメディアセンターで借りられます。



手に取ったきっかけは？

中学1年生の地理の授業で何も見ずに世界地図を描いてもらった、多くの生徒が南極大陸を忘れていました。その時、南極は誰のもの？という疑問が浮かんで。私たちにとっては遠い存在の南極だけれど国でないならどうなっているんだろうと思って本を探していたらこの本がヒットしました。そうしたら、南極は誰の所有物でもないようにするために「南極条約」を定めていたことがわかりました。



とくに面白かったところは？

この考え方には賛否両論あると思いますが、著者は“世界連邦”を作ったらどうかと言っています。世界中を一つの国にしようという考え。実際は難しいとは思いますが、そういう夢を抱けるような著者の考えが自分にとって新しかったので、なるほど、と。実際に誰かの所有物になれば必ずそこに争いが起きる。だから世界を南極のように争いのない国にしようというのが面白い。



その他おすすめのポイントは？

感動的なストーリーだったから『南極物語』にもなった、やむを得ず昭和基地に置き去りにされながら奇跡的に生き残っていたカラフト犬のタロとジロの話のほかにも、私もこの本で初めて知った、冷戦中のソ連と日本の感動的なエピソードなども紹介されています。

社会科

S. K. 先生



国境なき大陸
南極


柴田鉄治
富山房
インターナショナル
297.9/S

紙面の都合で割愛させていただいたインタビュー前に聞いたのもっと詳しい南極話はMCで掲示中、か。ふむ。読みに行くか。




 どんな本？


著者(イギリスの芸大の大学院生)が、ゼロからトースターを作る過程。9ヵ月かけてやっと出来上がった。

 手に取ったきっかけは？

ブックカフェでぶらぶらしていて、職業柄工学系の本に目が留まったので。

 面白かったところは？

鉄を得るために鉄鉱石を掘りに行き、さらに溶鉱炉まで自作した！その方法は現代の参考書には全く載っていないので、500年前の教科書を使ったりしている。ふつう思ってもやらないこと(知らない教授に協力依頼のメールを出したり)を本当にやってしまう著者の行動力。文も口語体で親しみやすい。

 この本への推薦の言葉を！

本当にトースターをゼロから作っているだけなので、理系文系の概念は気にしないでOK！「まじめにくだらないことを突き詰めていく」ということを学んでほしい。

ゼロからトースターを作ってみた結果
トーマス・トウエイツ
新潮社
500/T


理科

R. K. 先生




理科
Y. A. 先生




 どんな本？

哲学=自分と向き合う難しいものというイメージ。でもこの本は物語を読むように難しい話が頭に入ってくる。みんなが悩んでしまうような難しいことが分かりやすく書かれていて、1回読み始めると全部読めてしまう。

 著者の池田晶子さんてどんな人？


「哲学エッセイ」というのがテーマの方です。

 最後に一言！


深くものを考えるとはどのようなことなのか考えながら読んで！

14歳からの
哲学


池田晶子
トランスビュー
100/132

 出会いは？

教員になって一番最初に担任を持った子が卒業するときに「この本のように僕も生きます」と言ってくれた本です。

 良さは何ですか？

夢を挫折しそうになったり、困難にぶつかったとき勇気をくれます。本棚の一番目立つ場所に置いて元気をもらっています。また、絵のインパクトが強く、文字からは伝わらないメッセージが伝わってきます。

 好きなところは？

「夢は叶うんだよ」というところ。主人公が夢をあきらめ、年を取って余命わずかとなっていままでの人生を振り返るシーン。最後のページにはメッセージはないけれど、絵から感じるものがあるって好きです。

それでも僕は夢を見る

水野敬也
文響社
726.6/M

理科

T. S. 先生



英語科
Ms. K. J.



What is this book about?

This is a book about Japan. It's so funny with foreigner's perspectives on Japan.



Why did you choose this book?

I can learn about Japan from this book, and Keisen students can learn English.



What point do you want to recommend to the students?

We can see some funny situations happening here, at Keisen. Also, we can find new views on Japan which we wouldn't have come up with ourselves.

Comic Japan

ロジャー・ター
チャールズ・イー
タトル出版
726.1/D



出会いは？

高校生の頃、国語の授業で『こころ』を読んで夏目漱石が好きになり次々読んだ。



印象的なシーン/セリフは？

「平生はみんな善人なんです…それがいざというまぎわに、急に悪人になるんだから恐ろしいのです…」
→自分の本質、自分の醜いところをつかれていたようでショック！



最後に一言！

『こころ』を夏休みに読むのはちょっと…という人は、『坊っちゃん』もおもしろいです。『こころ』を読む前に読んでみては？

こころ

夏目漱石
新潮社 他
913.6/N

英語科
M. I. 先生



出会いは？

1人目の子どもを産んだ28歳の時、作者の講演で。表紙を描いている山脇百合子さんの絵が好きだった。



好きなところ、印象が強いところは？

「子どもへの愛情は夫婦の愛情のあふれたものから与える」
→指導書ではなく、母親に寄り添う内容。子どもと同じ目線に立つ。初めての子育てで勇気もらった。育児のQ&Aや子どものつらさへの寄り添い方、親子関係などについて続編には書かれています。



ぜひ読んでほしい一文は？

「人を信じる力と、自分を信じる力は同じ意味であるということが、子どもを育てるうえで、重要なことだと思います。私たち大人がやるべきことは、子どもたちに人を信じる力を与えてあげること。それには大人自身が人の善意を信じて、地域社会の人と交わりながら生きることが大切で、ゆっくりでもいいから私たちがその気持ちを持って努力を続けていくことが大切である。」

子どもへの
まなざし

佐々木正美
福音館書店
379.9/S

英語科
H. Y. 先生



『続子どもへの…』『完子どもへの…』の3部作です。

数学科

T.K.先生



出会いは？

中2。高校受験の過去問を解いていたら国語の問題に使われていて、内容が面白かった。



好きなところや印象に残った言葉は？

主人公の高校生の男の子は、大人の事情やただ従うことが嫌いで共感できた。刺激的なシーンも多く大人の世界に足を踏み入れた感じがした。

「ぼくは、初めて、大人を見下すことを覚えた」



この本を読んで印象に残ったことは？

自分の信念に従って正しいことは正しいと言い続けること、弱い者を守り、強い者に立ち向かっていくことは「カッコイイ」ことなんだと分かりました。

ぼくは勉強
ができない

山田詠美
新潮社
913.6/Y



出会いは？

大学時代。三島由紀夫が賞讃した人で、題名が目をつけたので。(著者は森鷗外の娘)



好きなところや好きな言葉は？

作者は贅沢→貧乏になった人。でも、自分が美しいと思ったものを集めたり、その配置にこだわったり、贅沢な精神世界を楽しんで生きているところ。

「だいたい贅沢というものは高価なものを持っていることではなくて、贅沢な精神を持っていることである」



この本を読んでよかったことは？

精神世界を豊かにすることで乗り越えられることがある、自分もそう生きたいと思うようになったこと。

贅沢貧乏

森茉莉
講談社
914.6/M

国語科

Y.T.先生



社会科

K.D.先生



どんな本？

前3世紀末の楚漢戦争を描いた作品。中国の歴史書『史記』(著:司馬遷)の本紀・列伝をもとに、歴史小説の大家である司馬遼太郎(「司馬遷」に「遼」に及ばない「日本人(=太郎)」という意味)が1本のストーリーにまとめた著作。秦末から漢初の動乱期に生きた豪傑たちの生き様を作者独自の解釈を交えてダイナミックに伝えている。



出会いは？

センター試験の過去問(国語)で末尾の一部が登場していて、問題演習後にすべて読みたいと思ってすぐを買ってしまった。



おすすめポイントは？

両陣営の指導者である項羽と劉邦の人間性が強調されており、大志を抱きながらも未熟さが残る項羽の心情の動きと、カリスマと表現すべき人望を持つ劉邦の奔放さは、読んでいて共感できる部分が多いです。漢文の授業で登場する「鴻門之会」や「四面楚歌」などの舞台になっており、文学作品として読む以外に国語や歴史の知識を深める教材としても使えますよ！

項羽と劉邦
上・中・下

司馬遼太郎
新潮社
913.6/S/1-3